

学習・研究成果報告書

文学の情景を考察
ドールハウス制作

2020 年度 2 月

環境情報学部 4 年
鳴川研究室所属
保谷 恵

1. 研究概要

課題

文学を楽しむためには、情景を想像する力が必要である。文章を読み、読解するだけでなく、頭の中で情景をイメージして楽しむ。

目的

情景を想像するきっかけを作り、文学作品を楽しむ手助けをする。没入感あるのワンシーンを切り抜き、視覚情報与えることで、自ら情景を思い描きやすくすること。

手段

文学作品をもとにしたドールハウス (1/12スケール) を制作し、文学を立体空間へ起こす。児童文学「メアリー・ポピンズ」をもとに制作する。文章の内容だけでなく、作品の歴史的背景、文化、建築、インテリアを考察しながら、ドールハウス作品を作りあげる。

児童文学「メアリーポピンズ」について

イギリス出身の作家トラバースによる児童文学シリーズである。舞台は1910年のロンドンで、ナニーであるメアリーポピンズが不思議な力で日常を楽しいものに変えていく。舞台であるバンクス家の住居をドールハウスとして制作した。

この文学作品を選んだ理由

- 日常細かく鮮やかに描写しているため、立体空間に起こしやすい。
- 異なる時代を舞台としているおり、新たな学びとなる。
- ドールハウスが普及したヴィクトリアン期と、時代が一致しているため。

2. 文学考察

立体空間に起こす前に、文章からキーワードを抜き出し考察を行った。このシーンでは煙突掃除が登場する。イギリスの煙突掃除について調べると、彼らの持ち物や仕事内容が分かる。彼らは縄一本で煙突の中を下から上まで掃除していた。体を煙突内に押し付けながら登り降りしていたと言う事実から、煙突と暖炉の大きさも想像することができる。このように文学を考察していった。

画像データ：

https://drive.google.com/file/d/18q_4CFRIIVaRsPIDmy8FrTGvuSjgh0Ef/view?usp=sharing

応接間 (Drawing Room) の煙突掃除のシーン

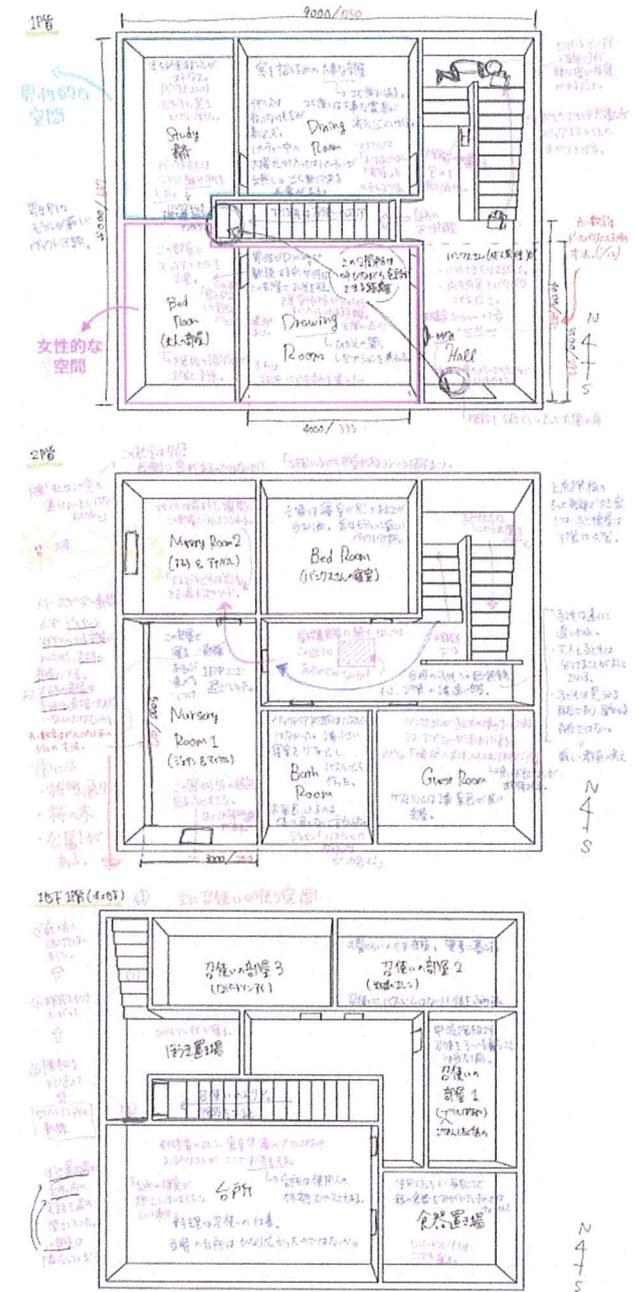


PL. トラヴァース 林容吉 訳、『帰ってきたメアリー・ポピンズ』。岩波少年文庫, 1975, 386p

先ほど文学の考察内容をもとに、家全体のイメージを膨らませていく。これはメアリーポピンズシリーズ4作に出てくる家に関する記述をまとめたものである。

画像データ：

https://drive.google.com/drive/folders/1K5WZWMlG_DWopBp2SifMCWE7xKgR9BwX?usp=sharing



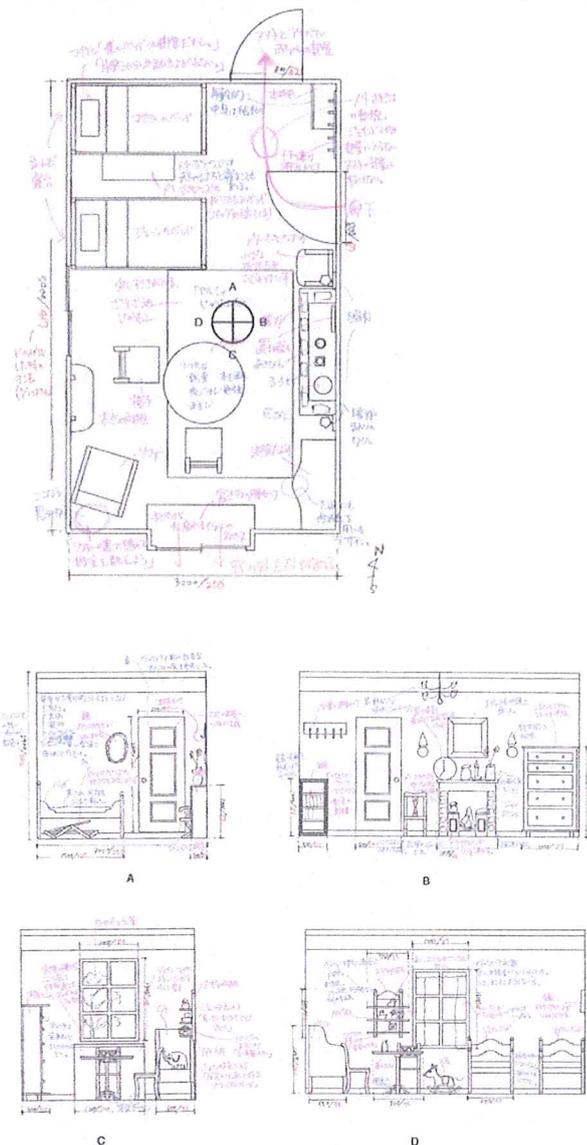
ナーサリールームとドロイングルームの2部屋をドールハウスとして制作した。

ナーサリールーム (子ども部屋)：ナニーを象徴する特徴的な部屋であり、最も登場する部屋。

ドロイングルーム (応接間)：現代の日本とは使い方が違い、学ぶことが多いと考えた。

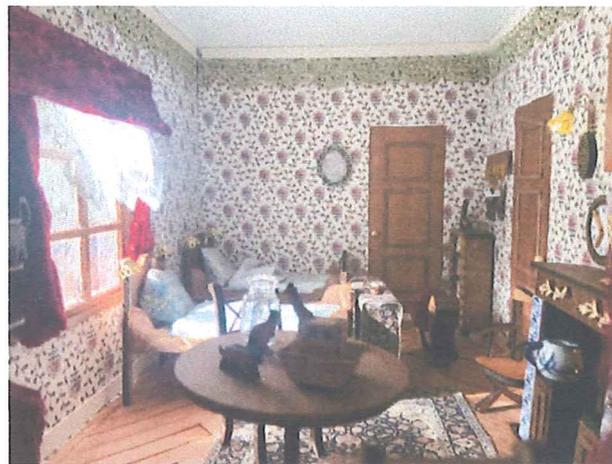
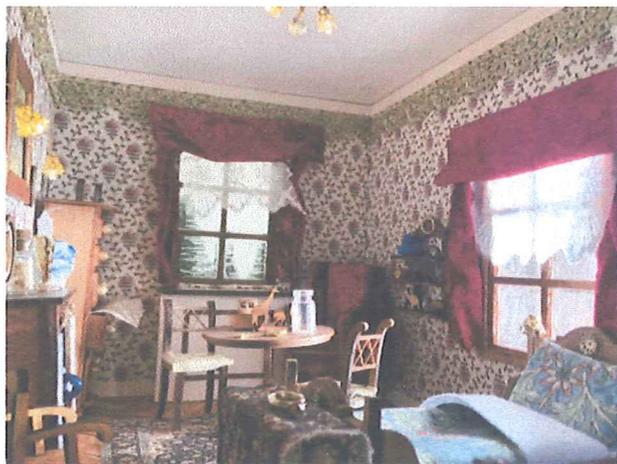
さらに解像度をあげて部屋の詳細を考察していく。作中の表現から、この部屋にある家具を推測し、それらがどのようなデザインであるかを考える。ここからはナーサリールーム1つに絞り、説明していく。

画像データ：
https://drive.google.com/drive/folders/1hp8P_UPjwrlPcolYeY-SAz8T11L0gOuL?usp=sharing



3. 制作物

ドールハウスは通常、家の断面から中をのぞいて楽しむものであるが、部屋六面を全て作り込むことで、より没入感を持たせた。人形の視点にカメラを置いて撮影することで、より世界観に入り込めるような工夫をした。



家具や小物それぞれは、文学の考察から成り立っている子どもの部屋の特徴であるおもちゃを例にあげ、説明する。ヴィクトリア期の代表的なおもちゃにノアの方舟がある。下の写真それぞれに、木でできた動物がいるが、これがノアの動物たちである。宗教上、日曜日は遊ぶことは禁じられていたが、ノアの方舟は許されていた。マイケルがこれらを並べて遊んでいる描写がある。



その他写真・制作の様子：
<https://photos.app.goo.gl/xhy2Ji2e1od9Nwgj6>

4. 展望

図書館などに設置し、本を苦手とする人に情景を想像するきっかけにしてほしい。

5. 謝辞

本研究は、教育奨励基金「学習・研究奨励金」の助成により成り立っている。研究活動を支えてくださった慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス教育奨励基金様ならびに城南信用金庫様に心からの感謝申し上げる。

6. 参考文献

- P.L. トラヴァース 林容吉 訳、『風にのってきたメアリー・ポピンズ』、岩波少年文庫、1954、296p
- P.L. トラヴァース 林容吉 訳、『帰ってきたメアリー・ポピンズ』、岩波少年文庫、1975、386p
- P.L. トラヴァース 林容吉 訳、『とびらをあけるメアリー・ポピンズ』、岩波少年文庫、1975、342p
- P.L. トラヴァース 林容吉 訳、『公園のメアリー・ポピンズ』、岩波少年文庫、1975、368p
- 奥田実紀、ちばかおり『図説 ヴィクトリア朝の子どもたち』、株式会社河出書房新社、2019、143p
- 小野まり『図説 英国インテリアの歴史 魅惑のヴィクトリアン・ハウス』、株式会社河出書房新社、2013、127p
- 谷田博幸『図説 ヴィクトリア朝百貨事典』、株式会社河出書房新社、2001、143p